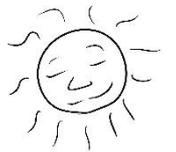


求道

「求道」をどう読むか
によって、宗教が変わり
ます。「キユウドウ」と読



むとキリスト教、「グドウ」と読むと仏教です。

キリスト教の「求道」は、キリスト教を信仰したいと
考えている、洗礼前のことを指します。

仏教の「求道」は、仏道を求めていくことを指します。
仏道を求めるとは、仏となり、人々をすくうということ
です。例えるなら、自らが太陽となつて、あたりを照ら
し暖める様なものです。自らが仏となるかどうか、「キ
リスト教」や他の宗教との大きな違いです。

この「求道」は、お盆参りで読むことの多い『讚仏偈』
に出てきます。『讚仏偈』とは、阿弥陀如来が仏となる前
に、師を讚え、覚悟を誓われます。
供養一切斯等諸仏不如求道堅正不却
(すべての仏方に供養するよりも私が阿弥陀仏になる
道を、ひるまずに歩む方がよりいいものとなります。)

讚仏偈

経文意訳・作法付



しみを味わおうとも、皆をすくうために
阿弥陀仏となると誓われて終わります。
お盆参りで是非探してみてください。

力を抜いた方が
バットを速く
振れる

お盆参り

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を
紹介しています。

功德

お釈迦様は悟りを開かれ
た後、これを人々に説くか
どうか迷われました。そし



て、梵天というインドの神様が要請をして、伝道が始まりまし
た。戒律を守り、行を修め、徳を積ませました。これを「功德」
といいます。この功德の方向性が変わっていきます。

お釈迦様が入滅されて数百年後、出家者を支える在家の人々
のための仏教が生まれました。大乘仏教といえます。行者が積
み上げた功德を他へ振りむけるようになります。その極地が、
阿弥陀仏の本願力です。自らの功德をどのようなことがあつて
も伝えると誓われています。お盆参りで読む『重誓偈』に出ま
す。『重誓偈』とは、阿弥陀仏の誓いの要点が説かれています。
為衆開法蔵広施功德宝

(人々の為に教えを説き明かし功德の宝を広く施そう)
我至成仏道名声超十方究竟靡所聞誓不成正覚

私が仏(阿弥陀仏)となり私の喚び声(南無阿弥陀仏)がす
べてを超えてあなたの元に届かないならば決し
て仏とはならない)

浄土真宗が念仏を大切に
する理由はここから
きています。



重誓偈

経文意訳・作法付